	工業高等	専門学校	開講年度 令和02年度(2020年度)	授業科目	建築構造設計演習
科目基礎				•	•	
科目番号		0031		科目区分	専門 / 🤃	
授業形態		演習		単位の種別と単	位数 学修単位	位: 2
開設学科		専攻科 建	肇学専攻	対象学年	専2	
開設期				週時間数	2	
			学会;鋼構造計算規準			
担当教員		稲田 祐二	- -			
到達目標	票					
1)設計所 2)設計所 3)部材(4)接合語 5)基礎(用荷重を計り 用応力を計り の設計・評価の設計・	算できる。 算できる。 価ができる。 評価ができる。 価ができる。	の構造設計・評価ができること。具体 。	*的には以下の目標	を設定する。	
ルーブリ	ノック					
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目	(1)		設計用荷重を適切に	設計用荷重を計算できる。		設計用荷重を計算できない。
			計算できる。 設計用応力を適切に計算できる。	設計用応力を計	.,	
評価項目						設計用応力を計算できない。
評価項目	(3)		部材の設計・評価が適切にできる。	部材の設計・評	価ができる。	部材の設計・評価ができない。
評価項目	(4)		接合部の設計・評価が適切にできる。	接合部の設計・	評価ができる。	接合部の設計・評価ができない。
評価項目	(5)		基礎の設計・評価が適切にできる。	基礎の設計・評	価ができる。	基礎の設計・評価ができない。
評価項目	(6)		構造図が適切に理解できる。	構造図が理解で	 きる。	構造図が理解できない。
 学科のP	別達日標」	頁目との関		•		·
			·教育到達度目標 C-1			
JABEE di			3/13/23/23/23/01			
教育方法	去等					
教育方法 概要	去等	、1次設	系科目の集大成として建築構造物の構計を基本とする。また、計算・評価を	さするうえで建築構	造図の読解も行	う。
概要	去等	、 1次 1次 2 1次 2 1次 2 1次 2 1分 2 1分 2 1分 2 1	系科目の集大成として建築構造物の構計を基本とする。また、計算・評価をよび専攻科の構造系科目で学習した事でいる。従って、これまでに学習した重要なので、構造力学、構造計画、基が重要な教科である。は、演習科目なので自学自習を30時間は、授業内容に従い構造計算を質問は,昼休みおよび会議の無い日の付ける(E-mail:inada@yonago-k.a	さするうえで建築構 項を基礎として、 内容を充分に復習 壁構造、耐震構造 に関い上行うこと。 に実施すること。 の放課後(17:0	造図の読解も行 鋼構造の建築構 し、理解してお 論で学習した事	う。 造物の構造設計・評価ができることを くことが重要である。また、力学の 項を復習しておくこと。日々の演習の
概要 授業の進& 注意点	め方・方法	、 1次 1次 2 1次 2 1次 2 1次 2 1分 2 1分 2 1分 2 1	計を基本とする。また、計算・評価を よび専攻科の構造系科目で学習した事 ている。従って、これまでに学習した 重要なので、構造力学、構造計画、基 が重要な教科である。 は、演習科目なので自学自習を30時 習時間は、授業内容に従い構造計算を 質問は、昼休みおよび会議の無い日の	さするうえで建築構 項を基礎として、 内容を充分に復習 壁構造、耐震構造 に関い上行うこと。 に実施すること。 の放課後(17:0	造図の読解も行 鋼構造の建築構 し、理解してお 論で学習した事	う。 造物の構造設計・評価ができることを くことが重要である。また、力学の 項を復習しておくこと。日々の演習の
概要	め方・方法	、1次科とは、1次科とは、1次科とは、1次科とは、1分科は1分科は1分科は1分科は1分科は1分科は1分科は1分科は1分科は1分科は	計を基本とする。また、計算・評価を よび専攻科の構造系科目で学習した事 ている。従って、これまでに学習した 重要なので、構造力学、構造計画、基 が重要な教科である。 は、演習科目なので自学自習を30時 習時間は、授業内容に従い構造計算を 質問は、昼休みおよび会議の無い日の 付ける(E-mail:inada@yonago-k.ag	さするうえで建築構 項を基礎として、 内容を充分に復習 壁構造、耐震構造 に関い上行うこと。 に実施すること。 の放課後(17:0	造図の読解も行 鋼構造の建築構 し、理解してお 論で学習した事	う。 造物の構造設計・評価ができることを くことが重要である。また、力学の 項を復習しておくこと。日々の演習の
概要 授業の進& 注意点	め方・方法	、1次科とは、1次科とは、1次科とは、1次科とは、1分科は1分科は1分科は1分科は1分科は1分科は1分科は1分科は1分科は1分科は	計を基本とする。また、計算・評価を よび専攻科の構造系科目で学習した事 ている。従って、これまでに学習した 重要なので、構造力学、構造計画、基 が重要な教科である。 は、演習科目なので自学自習を30時 習時間は、授業内容に従い構造計算を 質問は、昼休みおよび会議の無い日の 付ける(E-mail:inada@yonago-k.ad	さするうえで建築構 項を基礎として、 内容を充分に復習 礎構造、耐震構造 請問以上行うこと。 実施すること。 放課後(17:0 c.jp)。	造図の読解も行 鋼構造の建築構 し、理解してお 論で学習した事	う。 造物の構造設計・評価ができることを くことが重要である。また、力学の 項を復習しておくこと。日々の演習の 究室で受け付ける.また,メールでも
概要 授業の進& 注意点	め方・方法	、1次科とは、1次科とは、1次科とは、1次科とは、1分科は1分科とは、1分科は1分科は1分科は1分科は1分科は1分科は1分科は1分科は1分科は1分科は	計を基本とする。また、計算・評価を よび専攻科の構造系科目で学習した事 ている。従って、これまでに学習した 重要なので、構造力学、構造計画、基 が重要な教科である。 は、演習科目なので自学自習を30時 習時間は、授業内容に従い構造計算を 質問は、昼休みおよび会議の無い日の 付ける(E-mail:inada@yonago-k.ad 授業内容	さするうえで建築構 項を基礎として、 内容を充分に復習 礎構造、耐震構造 請問以上行うこと。 実施すること。 放課後(17:0 c.jp)。	造図の読解も行 鋼構造の建築構 し、理解してお 論で学習した事 のまで)稲田研	う。 造物の構造設計・評価ができることを くことが重要である。また、力学の 項を復習しておくこと。日々の演習の 究室で受け付ける.また,メールでも
概要 授業の進& 注意点	め方・方法	、1次設 おしもげ目自、け	計を基本とする。また、計算・評価を よび専攻科の構造系科目で学習した事 ている。従って、これまでに学習した 重要なので、構造力学、構造計画、基 が重要な教科である。 は、演習科目なので自学自習を30時 習時間は、授業内容に従い構造計算を 質問は、昼休みおよび会議の無い日の 付ける(E-mail:inada@yonago-k.ad	さするうえで建築構 項を基礎として、 内容を充分に復習 礎構造、耐震構造 請問以上行うこと。 実施すること。 放課後(17:0 c.jp)。	造図の読解も行 鋼構造の建築構 し、理解してお 論で学習した事 のまで)稲田研 週ごとの到達目	う。 造物の構造設計・評価ができることを くことが重要である。また、力学の 項を復習しておくこと。日々の演習の 究室で受け付ける.また、メールでも 開標 け算できる。
概要 授業の進& 注意点	め方・方法	、1次設 おしもげ目自、け	計を基本とする。また、計算・評価を よび専攻科の構造系科目で学習した事 ている。従って、これまでに学習した 重要なので、構造力学、構造計画、基 が重要な教科である。 は、演習科目なので自学自習を30時 習時間は、授業内容に従い構造計算を 質問は、昼休みおよび会議の無い日の 付ける(E-mail:inada@yonago-k.ad 授業内容 授業内容 ガイダンス:課題説明/建物概要、認 用材料の許容応力度	さするうえで建築構 項を基礎として、 内容を充分に復習 一内容を充分に復習 一時間以上行うこと。 一次課後(17:0 c.jp)。	造図の読解も行 鋼構造の建築構 し、理解してお 論で学習した事 のまで)稲田研 週ごとの到達目 設計用荷重を記	う。 造物の構造設計・評価ができることで くことが重要である。また、力学の 項を復習しておくこと。日々の演習の 究室で受け付ける.また、メールでも 開標 計算できる。
概要 授業の進& 注意点	対方・方法	、1次科と開発を表現したが、1次科と開発を表現の表別を表現を表現したが、1のでは、1のでは、1のでは、1のでは、1のでは、1のでは、1のでは、1のでは	計を基本とする。また、計算・評価を よび専攻科の構造系科目で学習した事 ている。従って、これまでに学習した 重要なので、構造力学、構造計画、基 が重要な教科である。 は、演習科目なので自学自習を30時 習時間は、授業内容に従い構造計算を 質問は、昼休みおよび会議の無い日の 付ける(E-mail:inada@yonago-k.ad 授業内容 ガイダンス:課題説明/建物概要、認 用材料の許容応力度 伏図、架構図/仮定荷重	さするうえで建築構 項を基礎として、 内容を充分に復習 一内容を充分に復習 一時間以上行うこと。 一次課後(17:0 c.jp)。	造図の読解も行 鋼構造の建築構 し、理解して事 のまで)稲田研 のまで)稲田研 週ごとの到達目 設計用荷重を記 設計用荷重を記	う。 造物の構造設計・評価ができることを くことが重要である。また、力学の 項を復習しておくこと。日々の演習の 究室で受け付ける。また、メールで 相標 け算できる。 け算できる。
概要 授業の進& 注意点	め方・方法	、1次段次科と職場ではではでのの <td>計を基本とする。また、計算・評価を よび専攻科の構造系科目で学習した事 ている。従って、これまでに学習した 重要なので、構造力学、構造計画、基 が重要な教科である。 は、演習科目なので自学自習を30時 習時間は、授業内容に従い構造計算を 質問は、昼休みおよび会議の無い日の 付ける(E-mail:inada@yonago-k.ad 授業内容 ガイダンス:課題説明/建物概要、設 用材料の許容応力度 伏図、架構図/仮定荷重 部材断面の読み取り/C,Mo,Qoの算気</td> <td>さするうえで建築構 項を基礎として、 内容を充分に復習 一内容を充分に復習 一時間以上行うこと。 一次課後(17:0 c.jp)。</td> <td>造図の読解も行 鋼構造の建築構 し、理解した事 のまで)稲田研 のまで)稲田研 設計用荷重を記 設計用荷重を記 設計用荷重を記</td> <td>う。 造物の構造設計・評価ができることで くことが重要である。また、力学の対 項を復習しておくこと。日々の演習の 究室で受け付ける。また、メールで 記標 は算できる。 は算できる。 は算できる。</td>	計を基本とする。また、計算・評価を よび専攻科の構造系科目で学習した事 ている。従って、これまでに学習した 重要なので、構造力学、構造計画、基 が重要な教科である。 は、演習科目なので自学自習を30時 習時間は、授業内容に従い構造計算を 質問は、昼休みおよび会議の無い日の 付ける(E-mail:inada@yonago-k.ad 授業内容 ガイダンス:課題説明/建物概要、設 用材料の許容応力度 伏図、架構図/仮定荷重 部材断面の読み取り/C,Mo,Qoの算気	さするうえで建築構 項を基礎として、 内容を充分に復習 一内容を充分に復習 一時間以上行うこと。 一次課後(17:0 c.jp)。	造図の読解も行 鋼構造の建築構 し、理解した事 のまで)稲田研 のまで)稲田研 設計用荷重を記 設計用荷重を記 設計用荷重を記	う。 造物の構造設計・評価ができることで くことが重要である。また、力学の対 項を復習しておくこと。日々の演習の 究室で受け付ける。また、メールで 記標 は算できる。 は算できる。 は算できる。
概要 授業の進& 注意点	対方・方法	、1次科とは、1次科とは、1次科とは、1次科とは、1分科は、1分科は、1分科は、1分科は、1分科は、1分科は、1分科は、1分科	計を基本とする。また、計算・評価を よび専攻科の構造系科目で学習した事 ている。従って、これまでに学習した 重要なので、構造力学、構造計画、基 が重要な教科である。 は、演習科目なので自学自習を30時 習時間は、授業内容に従い構造計算を 質問は、昼休みおよび会議の無い日の 付ける(E-mail:inada@yonago-k.ar 授業内容 ガイダンス:課題説明/建物概要、設 用材料の許容応力度 伏図、架構図/仮定荷重 部材断面の読み取り/C,Mo,Qoの算気 風圧力の設定	でするうえで建築構 項を基礎として、 内容を充分に復習 一段で構造、耐震構造 に関い上行うこと。 の放課後(17:0 c.jp)。	造図の読解も行 鋼構造の建築構 し、理解した事 のまで) 稲田研 のまで) 稲田研 設計用荷重を記 設計用荷重を記 設計用応重を記 設計用応力を記	う。 造物の構造設計・評価ができることを くことが重要である。また、力学の 項を復習しておくこと。日々の演習の 究室で受け付ける.また、メールで 相標 は算できる。 は算できる。 は算できる。 は算できる。
概要 授業の進& 注意点	対方・方法	、1次科と報告を表現した。 、	計を基本とする。また、計算・評価を よび専攻科の構造系科目で学習した事 ている。従って、これまでに学習した 重要なので、構造力学、構造計画、基 が重要な教科である。 は、演習科目なので自学自習を30時 習時間は、授業内容に従い構造計算を 質問は、昼休みおよび会議の無い日の 付ける(E-mail:inada@yonago-k.ad 授業内容 ガイダンス:課題説明/建物概要、認 用材料の許容応力度 伏図、架構図/仮定荷重 部材断面の読み取り/C,Mo,Qoの算定 風圧力の設定 自重の設定	でするうえで建築構 項を基礎として、 内容を充分に復習 一段で構造、耐震構造 に関い上行うこと。 の放課後(17:0 c.jp)。	造図の読解も行 鋼構造の建築構 し、理解した事 のまで)稲田研 のまで)稲田研 設計用荷重を記 設計用荷重を記 設計用荷重を記 設計用応重を記 設計用応力を記	う。 造物の構造設計・評価ができることをくことが重要である。また、力学の対策を復習しておくこと。日々の演習の発達できる。また、メールでも関係を表しています。 おいました。 は算できる。 は算できる。 は算できる。 は算できる。 は算できる。 は算できる。 は算できる。
概要 受業の進む 注意点 授業計画	対方・方法	、 1 次 科と職上科学お受力次 科と職上科学お受力週1 週2 週3 週6 週7 週	計を基本とする。また、計算・評価を よび専攻科の構造系科目で学習した事 ている。従って、これまでに学習した 重要なので、構造力学、構造計画、基 が重要な教科である。 は、演習科目なので自学自習を30時 習時間は、授業内容に従い構造計算を 質問は、昼休みおよび会議の無い日の 付ける(E-mail:inada@yonago-k.ad 授業内容 ガイダンス:課題説明/建物概要、認 用材料の許容応力度 伏図、架構図/仮定荷重 部材断面の読み取り/C,Mo,Qoの算気 風圧力の設定 国による応力の設定/地震時応力の認	でするうえで建築構 項を基礎として、 内容を充分に復習 一段で構造、耐震構造 に関い上行うこと。 の放課後(17:0 c.jp)。	造図の読解も行 鋼構造の建築構 し、理解した事 のまで)稲田研 のまで)稲田研 のまで)稲田研 のまで)稲田研 設計用荷重を言 設計用荷重を言 設計用応力を言 設計用応力を言	う。 造物の構造設計・評価ができることをくことが重要である。また、力学の関係を復習しておくこと。日々の演習の 究室で受け付ける。また、メールで 相標 は算できる。 は算できる。 は算できる。 は算できる。 は算できる。 は算できる。 は算できる。 は算できる。 は算できる。
概要 授業の進む 注意点 授業計画	対方・方法	、 1 次 科と職上科学お受力次 科と職上科学お受力週1 週2 週3 週6 週7 週	計を基本とする。また、計算・評価を よび専攻科の構造系科目で学習した事 ている。従って、これまでに学習した 重要なので、構造力学、構造計画、基 が重要な教科である。 は、演習科目なので自学自習を30時 間は、授業内容に従い構造計算を 質問は、昼休みおよび会議の無い日の 付ける(E-mail:inada@yonago-k.ad 授業内容 が図、架構図/仮定荷重 部材断面の読み取り/C,Mo,Qoの算気 風圧力の設定 風による応力の設定/地震時応力の設 応力図の設定	でするうえで建築構 項を基礎として、 内容を充分に復習 一段で構造、耐震構造 に関い上行うこと。 の放課後(17:0 c.jp)。	造図の読解も行 鋼構造の建築構 過間で学習した事 のまで)稲田研 のまで)稲田研 のまで)稲田研 のまで)稲田研 設計用荷重を言 設計用応力を言 設計用応力を言 設計用応力を言 設計用応力を言	う。 造物の構造設計・評価ができることを くことが重要である。また、力学の 項を復習しておくこと。日々の演習の 究室で受け付ける。また、メールで 相標 は算できる。
概要 授業の進む 注意点 授業計画	対方・方法	、 1 本標知み本自な時 週 1週 3週 4週 3週 4週 5週 8週 9週	計を基本とする。また、計算・評価を よび専攻科の構造系科目で学習した事 でではって、これまでに学習した事 重要なので、構造力学、構造計画、基 が重要な教科である。 は、演習科目なので自学自習を30時 習時間は、授業内容に従い構造計算を 質問は、昼休みおよび会議の無い日の付ける(E-mail:inada@yonago-k.ad 授業内容 がすダンス:課題説明/建物概要、設 用材料の許容応力度 伏図、架構図/仮定荷重 部材断面の読み取り/C,Mo,Qoの算気 風圧力の設定 自重の設定 風による応力の設定/地震時応力の設 応力図の設定 断面算定	でするうえで建築構 項を基礎として、 内容を充分に復習 一段で構造、耐震構造 に関い上行うこと。 の放課後(17:0 c.jp)。	造図の読解も行 鋼構造の建築構 世報した事 のまで)稲田研 のまで)稲田研 のまで)稲田研 のまで)稲田研 のまで)稲田研 設計用荷重を言 設計用応力を言 設計用応力を言 設計用応力を言 設計用応力を言 設計用応力を言 設計用応力を言	う。 造物の構造設計・評価ができることを くことが重要である。また、力学の 項を復習しておくこと。日々の演習の 究室で受け付ける。また、メールで 記標 は算できる。
概要 授業の進む 注意点 授業計画	対方・方法	、 1 本標知み本自な時 週 1週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 10週	計を基本とする。また、計算・評価を よび専攻科の構造系科目で学習した事 でではって、これまでに学習した事 重要なので、構造力学、構造計画、基 が重要な教科である。 は、演習科目なので自学自習を30時 習時間は、授業内容に従い構造計算を 質問は、昼休みおよび会議の無い日の付ける(E-mail:inada@yonago-k.ar 授業内容 がイダンス:課題説明/建物概要、認用材料の許容応力度 伏図、架構図/仮定荷重 部材断面の読み取り/C,Mo,Qoの算気 風圧力の設定 自重の設定 風による応力の設定/地震時応力の設 応力図の設定 断面算定	でするうえで建築構 項を基礎として、 内容を充分に復習 一段で構造、耐震構造 に関い上行うこと。 の放課後(17:0 c.jp)。	造図の読解も行 鋼構造の建築構 調構造の建した事 のまで)稲田研 のまで)稲田研 のまで)稲田研 のまで)稲田研 のまで)稲田研 設計用応力を言 設計用応力を言 設計用応力を言 設計用応力を言 設計用応力を言 設計用応力を言 設計の対設計・評価	う。 造物の構造設計・評価ができることを くことが重要である。また、力学の 項を復習しておくこと。日々の演習の 究室で受け付ける.また、メールで 理標 は算できる。 は算できる。 は算できる。 は算できる。 は算できる。 は算できる。 は算できる。 ができる。 ができる。 ができる。 ができる。
概要 授業の進む 注意点 授業計画	対方・方法	、1 本標知み本自な時 随 1週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	計を基本とする。また、計算・評価を よび専攻科の構造系科目で学習した事 でではって、これまでに学習した事 重要なので、構造力学、構造計画、基 が重要な教科である。 は、演習科目なので自学自習を30時 習時間は、授業内容に従い構造計算を 質問は、昼休みおよび会議の無い日の付ける(E-mail:inada@yonago-k.ad 授業内容 がイダンス:課題説明/建物概要、語用材料の許容応力度 代図、架構図/仮定荷重 部材断面の読み取り/C,Mo,Qoの算気 風圧力の設定 自重の設定 風による応力の設定/地震時応力の設 応力図の設定 断面算定 断面算定	でするうえで建築構 項を基礎として、 内容を充分に復習 一段で構造、耐震構造 に関い上行うこと。 の放課後(17:0 c.jp)。	造図の読解も行鋼は、	う。 造物の構造設計・評価ができることをくことが重要である。また、力学の関を復習しておくこと。日々の演習の究室で受け付ける。また、メールで記録できる。 け算できる。 け算できる。 け算できる。 け算できる。 け算できる。 け算できる。 ができる。 ができる。 ができる。 「価ができる。
概要 授業の進& 注意点	対方・方法	、1 本標知み本自な時 随 1週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	計を基本とする。また、計算・評価を よび専攻科の構造系科目で学習した事 ている。従って、これまでに学習した 重要なので、構造力学、構造計画、基 が重要な教科である。 は、演習科目なので自学自習を30時 間は、授業内容に従い構造計算を 質問は、昼休みおよび会議の無い日の 付ける(E-mail:inada@yonago-k.ad 授業内容 が図、架構図/仮定荷重 部材断面の読み取り/C,Mo,Qoの算な 風圧力の設定 国の設定 風による応力の設定/地震時応力の認 応力図の設定 断面算定 勝面算定 接合部の算定	でするうえで建築構 項を基礎として、 内容を充分に復習 一段で構造、耐震構造 に関い上行うこと。 の放課後(17:0 c.jp)。	造図の読解も行 鋼構造の記解も行 鋼構造のの記録を構 のの記述を開 のまで) 稲田研 のまで) 稲田研 いた。 いた。 いた。 いた。 いた。 いた。 いた。 いた。 いた。 いた。	う。 造物の構造設計・評価ができることをくことが重要である。また、力学の対策を復習しておくこと。日々の演習の発達できる。また、メールでも関係を表現しておく。また、メールでも関係を表現しておく。また、メールでも関係を表現してある。 は算できる。 は算できる。 は算できる。 は算できる。 ができる。 ができる。 ができる。 「価ができる。 「一個ができる。
概要 授業の進 注意点 授業計画	対方・方法 国 1stQ	、 1 本標知み本自な時 週 1週 2週 3週 5週 6週 7週 8週 9週 11週 12週	計を基本とする。また、計算・評価を よび専攻科の構造系科目で学習した事 ている。従って、これまでに学習した 重要なので、構造力学、構造計画、基 が重要な教科である。 は、演習科目なので自学自習を30時 間は、授業内容に従い構造計算を 質問は、授業内容に従い構造計算を 付ける(E-mail:inada@yonago-k.ad 授業内容 が図、架構図/仮定荷重 部材断面の読み取り/C,Mo,Qoの算気 風圧力の設定 自重の設定 風による応力の設定/地震時応力の認 応力図の設定 断面算定 断面算定 接合部の設定 接合部の設定	でするうえで建築構 項を基礎として、 内容を充分に復習 一段で構造、耐震構造 に関い上行うこと。 の放課後(17:0 c.jp)。	造図の読解も行講の表別で学習した。	う。 造物の構造設計・評価ができることをくことが重要である。また、力学の対策を復習しておくこと。日々の演習の発達できる。また、メールでも関係を表現しておく。また、メールでも関係を表現しておく。また、メールでも関係を表現してある。 は算できる。 は算できる。 は算できる。 は算できる。 ができる。 ができる。 ができる。 「価ができる。 「一個ができる。
概要 授業の進 注意点 授業計画	対方・方法 国 1stQ	、1 本標知み本自な時 週 1週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 12週 13週 13週 14週 14週	計を基本とする。また、計算・評価を よび専攻科の構造系科目で学習した事 ている。従って、これまでに学習した 重要なので、構造力学、構造計画、基 が重要な教科である。 は、演習科目なので自学自習を30時 間は、授業内容に従い構造計算を 付ける(E-mail:inada@yonago-k.ad 授業内容 が大ダンス:課題説明/建物概要、認 用材料の許容応力度 伏図、架構図/仮定荷重 部材断面の読み取り/C,Mo,Qoの算な 風圧力の設定 自重の設定 風による応力の設定/地震時応力の設 応力図の設定 断面算定 断面算定 断面算定 接合部の設定 基礎の算定 まとめ まとめ	でするうえで建築構 項を基礎として、 内容を充分に復習 一段で構造、耐震構造 に関い上行うこと。 の放課後(17:0 c.jp)。	造図の読解も行 鋼構造の記解も行 鋼構造の記録を構 のの記述を開 のまで) 稲田研 のまで) 稲田研 のまで) 稲田研 のまで) 稲田研 のまで) 稲田研 のまで) 稲田研 設計用荷値を記述を記述する。 設計用応力を記 設計用応力を記 設計用応力を記 設計用応力を記 設計用応力を記 設計・評価 接合部設計・評価 接合部設計・評価 は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	う。 造物の構造設計・評価ができることを くことが重要である。また、力学の 項を復習しておくこと。日々の演習の 究室で受け付ける.また、メールで 理標 は算できる。 は算できる。 は算できる。 は算できる。 は算できる。 ができる。
概要 授業の進む 注意点 授業計画	対方・方法 国 1stQ	、 1 本標知み本自な時 週 1 週 2 週 3 週 6 週 7 週 8 週 10 週 8 週 10 週 12 週 13 週	計を基本とする。また、計算・評価を よび専攻科の構造系科目で学習した事 ている。従って、これまでに学習した 重要なので、構造力学、構造計画、基 が重要な教科である。 は、演習科目なので自学自習を30時 間は、授業内容に従い構造計算を 質問は、昼休みおよび会議の無い日の 付ける(E-mail:inada@yonago-k.ad 授業内容 が図、架構図/仮定荷重 部材断面の読み取り/C,Mo,Qoの算別 風圧力の設定 風による応力の設定/地震時応力の設 応力図の設定 断面算定 断面算定 断面算定 接合部の設定 基礎の算定 まとめ	でするうえで建築構 項を基礎として、 内容を充分に復習 一段で構造、耐震構造 に関い上行うこと。 の放課後(17:0 c.jp)。	造図の読解も行 鋼構造の記解も行 鋼構造の記録を構 のの記述を開 のまで) 稲田研 のまで) 稲田研 のまで) 稲田研 のまで) 稲田研 のまで) 稲田研 のまで) 稲田研 設計用荷値を記述を記述する。 設計用応力を記 設計用応力を記 設計用応力を記 設計用応力を記 設計用応力を記 設計・評価 接合部設計・評価 接合部設計・評価 は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	う。 造物の構造設計・評価ができることで くことが重要である。また、力学の 項を復習しておくこと。日々の演習の 究室で受け付ける。また、メールで 相標 #算できる。 #算できる。 #算できる。 #算できる。 #算できる。 #節できる。 #ができる。 #ができる。 #ができる。 #ができる。 #ができる。 #ができる。 #ができる。 #ができる。

	分類 分野		学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
Ī				構造	建築構造の成り立ちを説明できる。	4	
			別の専建築系分野		建築構造(W造、RC造、S造、SRC造など)の分類ができる。	4	
	専門的能力	分野別の専 門工学			力の定義、単位、成分について説明できる。	5	
					カのモーメントなどを用い、カのつり合い(合成と分解)に関する	5	

	5
断面二次モーメント、断面相乗モーメント、断面係数や断面二次 半径などの断面諸量を計算できる。	5
選性は能におけてはもしれずれの完美 もし本形の関係を説明で	5
曲げモーメントによる断面に生じる応力(引張、圧縮)とひずみの 関係を理解し、それらを計算できる。	5
はり断面内のせん断応力分布について説明できる。	5
骨組構造物の安定・不安定の判定ができる。	5
骨組構造物に作用する荷重の種類について説明できる。	5
各種構造の設計荷重・外力を計算できる。	5
トラスの種類を説明でき、トラスの部材力の意味について説明できる。	4
節点法や切断法を用いて、トラスの部材応力を計算できる。	4
はりの支点の種類、対応する支点反力、およびはりの種類やその 安定性について説明できる。	5
はりの断面に作用する内力としての応力(軸力、せん断力、曲げ モーメント)、応力図(軸力図、せん断力図、曲げモーメント図)について説明することができる。	5
応力と荷重の関係、応力と変形の関係を用いてはりのたわみの微分方程式を用い、幾何学的境界条件と力学的境界条件について説明でき、たわみやたわみ角を計算できる。	5
不静定構造物の解法の基本となる応力と変形関係について説明できる。	5
はり(単純ばり、片持ちはり)の応力を計算し、応力図を描くこと ができる。	5
圧縮力を受ける柱の分類(短柱・長柱)が出来、各種支持条件に対するEuler座屈荷重を計算できる。	5
偏心圧縮柱の応力状態を説明できる。	5
ラーメンやその種類について説明できる。	5
ラーメンの支点反力、応力(軸力、せん断力、曲げモーメント)を 計算し、その応力図(軸力図、せん断力図、曲げモーメント図)を かくことができる。	5
構造力学における仕事やひずみエネルギーの概念について説明できる。	5
仕事やエネルギーの概念を用いて、構造物(例えば梁、ラーメン、トラスなど)の支点反力、応力(図)、変形(たわみ、たわみ角)を計算できる。	5
構造物の安定性、静定・不静定の物理的意味と判別式の誘導ができ、不静定次数を計算できる。	5
静定基本系(例えば、仮想仕事法など)を用い、不静定構造物の応 力と、支点反力を求めることができる。	5
いずれかの方法(変位法(たわみ角法)、固定モーメント法など)に より、不静定構造物の支点反力、応力(図)を計算できる。	5
木構造の特徴・構造形式について説明できる。	4
木材の接合について説明できる。	4
基礎、軸組み、小屋組み、床組み、階段、開口部などの木造建築 の構法を説明できる。	4
鋼構造物の復元力特性と設計法の関係について説明できる。	4
S造の特徴・構造形式について説明できる。	4
鋼材・溶接の許容応力度について説明できる。	4
	7
軸力のみを受ける部材の設計の計算ができる。	4
軸力のみを受ける部材の設計の計算ができる。 軸力、曲げを受ける部材の設計の計算ができる。	-
	4
軸力、曲げを受ける部材の設計の計算ができる。	4 4
軸力、曲げを受ける部材の設計の計算ができる。 曲げ材の設計の計算ができる。	4 4 4
軸力、曲げを受ける部材の設計の計算ができる。 曲げ材の設計の計算ができる。 継手の設計・計算ができる。	4 4 4 4
軸力、曲げを受ける部材の設計の計算ができる。 曲げ材の設計の計算ができる。 継手の設計・計算ができる。 高力ボルト摩擦接合の機構について説明できる。	4 4 4 4 4 4
軸力、曲げを受ける部材の設計の計算ができる。 曲げ材の設計の計算ができる。 継手の設計・計算ができる。 高力ボルト摩擦接合の機構について説明できる。 溶接接合の種類と設計法について説明できる。	4 4 4 4 4 4 4
軸力、曲げを受ける部材の設計の計算ができる。 曲げ材の設計の計算ができる。 継手の設計・計算ができる。 高力ボルト摩擦接合の機構について説明できる。 溶接接合の種類と設計法について説明できる。 仕口の設計方法について説明ができる。	4 4 4 4 4 4 4 4
軸力、曲げを受ける部材の設計の計算ができる。 曲げ材の設計の計算ができる。 継手の設計・計算ができる。 高力ボルト摩擦接合の機構について説明できる。 溶接接合の種類と設計法について説明できる。 仕口の設計方法について説明ができる。 柱脚の種類と設計方法について説明ができる。	4 4 4 4 4 4 4 4 4
軸力、曲げを受ける部材の設計の計算ができる。 曲げ材の設計の計算ができる。 継手の設計・計算ができる。 高力ボルト摩擦接合の機構について説明できる。 溶接接合の種類と設計法について説明できる。 仕口の設計方法について説明ができる。 柱脚の種類と設計方法について説明ができる。 鉄筋コンクリート造(ラーメン構造、壁式構造、プレストレストコンクリート構造など)の特徴・構造形式について説明できる。	4 4 4 4 4 4 4 4 5
軸力、曲げを受ける部材の設計の計算ができる。 曲げ材の設計の計算ができる。 継手の設計・計算ができる。 高力ボルト摩擦接合の機構について説明できる。 溶接接合の種類と設計法について説明できる。 仕口の設計方法について説明ができる。 柱脚の種類と設計方法について説明ができる。 鉄筋コンクリート造(ラーメン構造、壁式構造、プレストレストコンクリート構造など)の特徴・構造形式について説明できる。 構造計算の設計ルートについて説明できる。	4 4 4 4 4 4 4 4 5 5
軸力、曲げを受ける部材の設計の計算ができる。 曲げ材の設計の計算ができる。 継手の設計・計算ができる。 高力ボルト摩擦接合の機構について説明できる。 溶接接合の種類と設計法について説明できる。 仕口の設計方法について説明ができる。 仕即の種類と設計方法について説明ができる。 柱脚の種類と設計方法について説明ができる。 鉄筋コンクリート造(ラーメン構造、壁式構造、プレストレストコンクリート構造など)の特徴・構造形式について説明できる。 構造計算の設計ルートについて説明できる。 建物の外力と変形能力に基づく構造設計法について説明できる。	4 4 4 4 4 4 4 4 5 5
軸力、曲げを受ける部材の設計の計算ができる。 曲げ材の設計の計算ができる。 継手の設計・計算ができる。 高力ボルト摩擦接合の機構について説明できる。 溶接接合の種類と設計法について説明できる。 仕口の設計方法について説明ができる。 仕口の設計方法について説明ができる。 柱脚の種類と設計方法について説明ができる。 鉄筋コンクリート造(ラーメン構造、壁式構造、プレストレストコンクリート構造など)の特徴・構造形式について説明できる。 構造計算の設計ルートについて説明できる。 建物の外力と変形能力に基づく構造設計法について説明できる。 断面内の応力の分布について説明できる。	4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5
軸力、曲げを受ける部材の設計の計算ができる。 曲げ材の設計の計算ができる。 継手の設計・計算ができる。 総手の設計・計算ができる。 高力ボルト摩擦接合の機構について説明できる。 溶接接合の種類と設計法について説明できる。 仕口の設計方法について説明ができる。 柱脚の種類と設計方法について説明ができる。 鉄筋コンクリート造(ラーメン構造、壁式構造、プレストレストコンクリート構造など)の特徴・構造形式について説明できる。 構造計算の設計ルートについて説明できる。 建物の外力と変形能力に基づく構造設計法について説明できる。 断面内の応力の分布について説明できる。 許容曲げモーメントを計算できる。	4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5
軸力、曲げを受ける部材の設計の計算ができる。 曲げ材の設計の計算ができる。 継手の設計・計算ができる。 高力ボルト摩擦接合の機構について説明できる。 溶接接合の種類と設計法について説明できる。 仕口の設計方法について説明ができる。 柱脚の種類と設計方法について説明ができる。 鉄筋コンクリート造(ラーメン構造、壁式構造、プレストレストコンクリート構造など)の特徴・構造形式について説明できる。 構造計算の設計ルートについて説明できる。 建物の外力と変形能力に基づく構造設計法について説明できる。 断面内の応力の分布について説明できる。 許容曲げモーメントを計算できる。 主筋の算定ができる。	4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5
軸力、曲げを受ける部材の設計の計算ができる。 曲げ材の設計の計算ができる。 継手の設計・計算ができる。 認力ボルト摩擦接合の機構について説明できる。 溶接接合の種類と設計法について説明できる。 仕口の設計方法について説明ができる。 柱脚の種類と設計方法について説明ができる。	4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5
軸力、曲げを受ける部材の設計の計算ができる。 曲げ材の設計の計算ができる。 継手の設計・計算ができる。 高力ボルト摩擦接合の機構について説明できる。 溶接接合の種類と設計法について説明できる。 仕口の設計方法について説明ができる。 杜脚の種類と設計方法について説明ができる。 鉄筋コンクリート造(ラーメン構造、壁式構造、プレストレストコンクリート構造など)の特徴・構造形式について説明できる。 構造計算の設計ルートについて説明できる。 建物の外力と変形能力に基づく構造設計法について説明できる。 断面内の応力の分布について説明できる。 許容曲げモーメントを計算できる。 主筋の算定ができる。 釣合い鉄筋比について説明ができる。	4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5

				終局剪断力について	 C説明できる。			5		
				断面内の応力の分布	うについて説明でき	きる。		5		
				許容曲げモーメント	~を計算できる。			5		
				MNインターラクシ	ョンカーブについ	て説明できる。		5		
				主筋の算定ができる	3.			5		
				釣合い鉄筋比につい	ヽて説明ができる。			5		
				中立軸の算定ができ	きる。			5		
				許容せん断力を計算	草できる。			5		
				せん断補強筋の算足	Eができる。			5		
				終局曲げモーメント	>について説明でき	き る。		5		
				終局剪断力について	て説明できる。			5		
				基礎形式(直接、杭)の分類ができる。			4		
				基礎形式別の支持力	り算定方を説明でき	きる。		5		
				マグニチュードの概念と震度階について説明できる。				4		
				地震被害を受けた強	建物の破壊等の特徴 かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かん	ぬについて説明でき	る。	4		
評価割合	評価割合									
	試験		課題(計算書)	課題(報告書)	スケジュール	ポートフォリオ	その他		合計	
総合評価割合 0		50	40	10	0	0		100		
基礎的能力	0		25		5	0	0		50	
専門的能力	0 25		25	20	5	0	0		50	
分野横断的能力	0		0	0	0	0	0		0	